



代っ子通信

令和7年6月26日
<第15号>
校長 平塚智康

子どもが主役の授業を目指して～県外から多くの視察～

6月17日（火）、加賀市の学びの改革・山代小の子どもが主役の授業づくりの視察に、県外（岡山県、兵庫県、富山県等）から約70人の教職員・教育関係者等が訪れました。

工業化社会から情報化社会を経て、今はあらゆる場所でデジタル技術が活用され、社会や生活の形を変えるDX（デジタルトランスフォーメーション）の世界に入っています。新しく価値を生み出すための仕組みや産業構造がこれまでと大きく異なるため、子どもたちが生きていく時代に求められる力や思考・発想も大きく変化してきています。そこで、加賀市では、「BE THE PLAYER 自分で考え、動く、生み出す、そして社会を変える」をスローガンに掲げ、学びの改革に取り組んでいます。

学びの改革のポイントは、「個々のスピードに合わせて、自分のペースで、自分で学ぶ」（「個別最適な学習」と言います）ことと、「たくさんの人と対話して、助け合って、共に学び合う」（「協働的な学習」と言います）ことの2つです。私たちがこれまでの学校教育の中で受けた一斉学習（全員が黒板の方に向いて、教師の指示に従って、全員が同じペースで学ぶ）とは異なり、教師は、子どもたちに、学びに向かう姿勢や多様な学び方をしっかりレクチャーし、学習のめあてを確認し、学習の見通しを立てた上で、子どもたちに学びを委ね、子どもたちの学びの自己調整力を高めていきます。本校では、こうした学習のことを「自己調整学習」（自由進度学習）と呼んでいます。

子どもたちに「自己調整力」が身につければ、自ら主体的に学んだり、友達と対話的・協働的に学んだりすることができるようになります。そういう学習を積み重ねていくことによって、子どもたちには、「ゼロからライチを生み出す力」「問題発見力」「課題解決力」等、これからの時代に求められる力が備わっていくものと考えています。子どもたちに「自己調整力」を身につけさせていく学習のスタイルは、バスガイドさん（教師）が旗を振って観光地を先導する団体旅行ではなく、旅人自身（児童）がガイドブックや地図等を調べながら観光地を探訪して回るので、一見すると教師が児童に自習させているように映ります。しかし、教師は児童の観光（学習）が充実するように、資料を準備したり、ヒントを出したり、友達と協働させたり、支援したりしています。そして、一人一人が学習のめあてに到達しているかを見取っています。つまり、全体を教え導く「ティーチング」から、子どもたち個々に応じた適切なサポートを行う「コーチング」へと、指導法が変化しているわけです。

本校では、高学年の国語・算数・社会・理科・総合等の時間に、「自己調整学習」を取り入れています。低学年でも、発達段階や学年の実態に合わせて、少しづつ学びを子どもたちに委ね、子どもたちの「自己調整力」を高めていくよう学びの改革に取り組んでいます。まだまだ学びの改革は途に就いたばかりですが、子どもたちが主役の授業づくりを目指して、これからも職員一同研鑽を積んでまいります。



<自己調整学習の授業公開>



<本校の取組を説明する研究主任の吉村教諭>

いしかわの子ども未来ラウンドテーブル

現在、石川県では、第4期石川の教育振興基本計画の策定に取り掛かっています。石川県教育委員会は、計画の策定にあたって、県内の子どもたちの教育に対する声に耳を傾け、子どもたちの意見を聴取するため、「いしかわの子ども未来ラウンドテーブル」を開催しています。

加賀地区の小学校では、山代小学校が唯一選ばれ、6月20日（金）の放課後に開催されました。参加したのは、6年生運営委員の〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんの5人です。



司会:みんな、どんな勉強が好き？

児童:山代小では、自由進度学習っていう方法で勉強しています。

司会:それってどんな学習？

児童:自分たちで、学習のめあてを決め、課題をつくり、自分のペースで学習を進めていきます。早く課題を進められた人が、困っている人に教えたりすることもあります。この学習が始まってから、これまで嫌いな人が多かった算数が人気になっています。

児童:学習を進めていくとき、学習内容をインプットするだけではなくて、友達に解き方を説明するミッションがあって、アウトプットする場面もあるのがいいと思います。



司会:信頼できる先生ってどんな先生かな？

児童:やる気を出させてくれる先生。

児童:失敗しても、「失敗は成功のもとだよ。」とか、励ましてくれる先生。

児童:相談にのってくれる先生。

児童:先生が元気で生き生きしていると、ぼくたちも元気で生き生きする。

司会:何か不安なことはある？

児童:中学校に行くと、勉強も難しくなるし、忙しくなるし、勉強についていけるか不安。

司会:山代小をもっとよくするために、どうすればいいと思う？

児童:図書室が古いので、もっと明るくして、本も増やして、子どもたちが行きたくなるような図書室になるといい。

児童:加賀市はデジタルとか力を入れているので、プログラミングとか、ロボットとかの授業がもっと増えるといいと思う。

平 どうですか？子どもたち、すごいですよね。子どもたちとは何の打ち合わせも練習もしていないのに、こんなにしっかりと自分の思いや意見を語っていました。今号の前段で、「子どもたちが主役の授業を目指す本校の取組」について紹介しましたが、6年生の子どもたちは着実に、「自分で考え、動き、生み出すことのできるPLAYER」に育ってきているなあと、私はとてもうれしくなりましたし、本校の取組の成果を感じました。石川県教育委員会の先生方も、子どもたちが生き生きとした様子で意見を述べている姿に、とても感心しておられました。